ユニークな 貨車でつくった 下川沿駅

JR東日本(旧国鉄)では、下川沿駅の老朽化に伴い、昨年一月、貨車を利用して新しい駅舎をつくりました。コンパクトに新装された駅舎は、通勤、通学客はもとより、地元の皆さんからも「以前よりも明るくなったし、ユニークでいいですね。」と大変好評です。

川口上の老人クラブ「若葉会」の皆さんは、社会奉仕活動の一つとして、下川沿駅の清掃をしています。会長の斎藤三郎さんは「みんなが気持ちよく駅を利用できるようにと、駅の中やホームのゴミ拾い、草むしりなどの作業を年一回行っています。会員の中には一日おきに、朝食前に駅の清掃に出かけている人もいます。また、私たちの他にも、小・中学生が夏休みなどに清掃活動をしています。せっかくの新しい駅ですから、利用される方は、タバコの吸いがらやあきカン、ゴミなどは絶対に捨てないでください。」と話していました。

▲「若葉会」の皆さん

ちびっこギャラリー おとうさん

下川沿保育園

かたおか かすみちゃん
おとうさんはすごくやさしいの。トランプをしてあそんでくれるよ。

ひかげ わきこちゃん
いつも、おとうさんといっしょにおふろへ入るの、おとうさん大好き。

くどう えみこちゃん
雪ダルマをつくってくれたり、雪がっせんをしてあそんでくれるから、おとうさんが好きなの。

伝統の獅子踊りを再興

川口獅子踊り保存会

川口の獅子踊りは、昭和十五年から途絶えていましたが、四十七年ころ再興の話が起こり、四十九年から本格的に復活しました。再興当時の模様を、川口獅子踊り保存会会長の斎藤常彰さんは次のように話します。

「青年会の地域活動に取り入れようと、獅子踊りの再興を計画しました。幸い長老の一人が笛と踊りを覚えていたので、仲間十人が一年間毎晩、それこそ農繁期も休まずに特訓を受けました。最初は町内会館で練習をしていたのですが、なにせ習い初めのヘタな笛や太鼓ですので、メロディというよりは騒音になってしまい、近所の皆さんに迷惑をかけてしまいました。何カ所か練習場を変え、最後に落ちついた場所が、町内のはずれの倉庫でした。仲間の一人が所有している倉庫なんですが、戸もなく裸電球一コしか付いていませんでしたから、吹雪の日などは大変でした。それでも、一人もやめることなく続けてこれたのは、『なんとしても再興するんだ』という気概があったからで、みんなの熱気は、雪をも溶かすほどでした。」

斎藤さんたちは、一年間の練習の成果を町内会に披露。町内会も獅子踊りの保存、伝承に理解を示し、補助金も出してくれるようになりましたが、悩みは後継者育成でした。

「それで昨年の六月、下川沿中へ協力をお願いしたところ、先生方のご理解を得て『下川沿中学校獅子踊りクラブ』を発足させることができ、昨年の学校祭で獅子踊りが発表されました。子供たちに、獅子踊りを継いでもらいたいのはもちろんですが、単に郷土芸能の継承・保存ということだけでなく、活動の中から生まれる郷土を愛する心、連帯感などを知ってもらいたいですね。」と、斎藤さんは話していました。

◆次回は「花岡地区」編をお送りします。